

平成27年度3年生皮膚科伊藤担当分試験問題

臨床写真



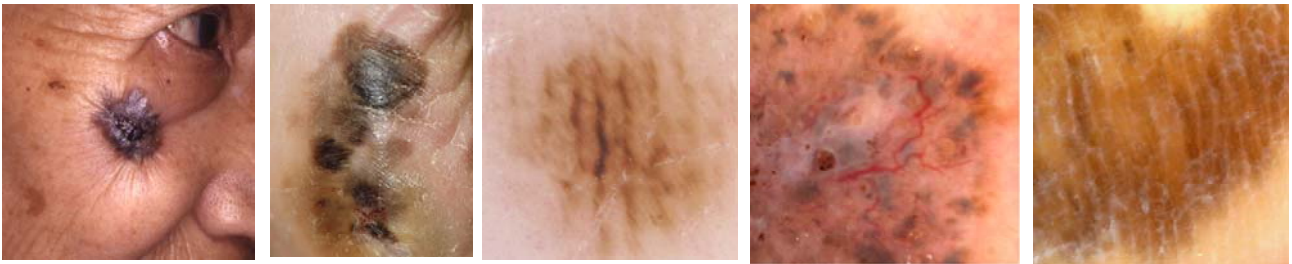
ア

イ

ウ

エ

オ



カ

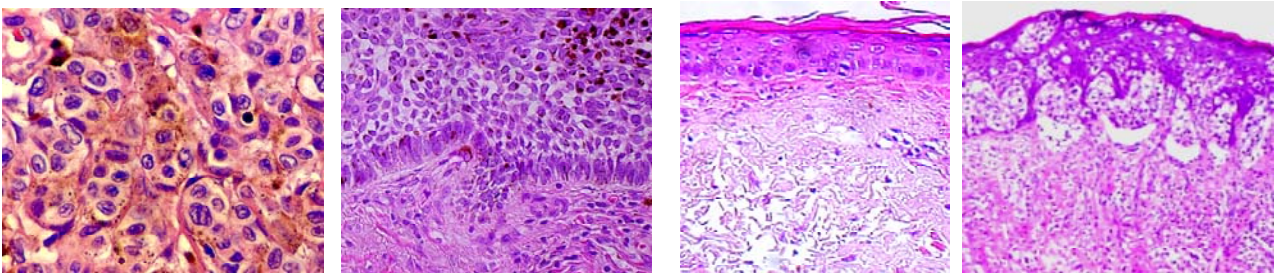
キ

ク

ケ

コ

組織標本写真

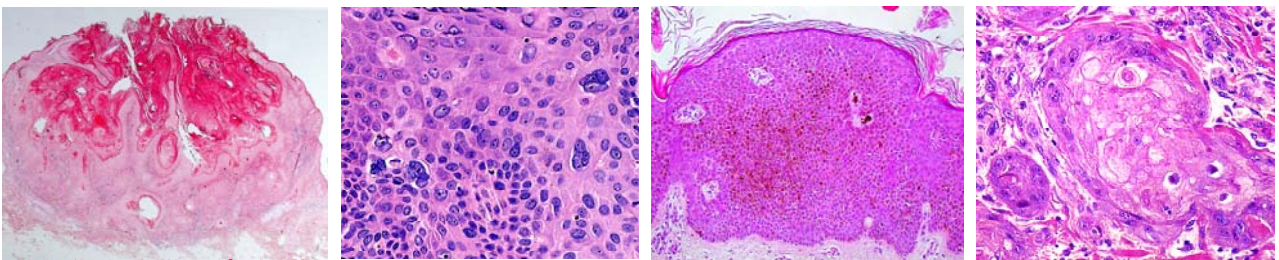


1

2

3

4



5

6

7

8

各文章を読み( )内にその疾患名か、設問の答えを書きなさい。またその疾患をカラー写真から写真(ア～コ)と組織標本(1～8)を選んで[ ]に記入しなさい。(写真と組織は同一の患者さんのものではありません)

1.湿疹様紅斑や( )として始まり、後に湿潤・びらん性局面を呈する。進行すると局面内に腫瘤がみられ、所属リンパ節転移が生じる。初期では( )や( )と誤診されることがある。  
この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

2.短期間にこの皮膚腫瘍の多発と皮膚そう痒症を伴うと( )と呼ばれ、( )の合併率が高い。この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。視診診断では皮膚悪性腫瘍である( )との鑑別診断を要する場合がある。

3.転移しやすく、悪性度の高い腫瘍で、皮膚以外にも生じることがあるが日本人では( )に生じる割合が多い。母斑との鑑別診断ではABCDEの頭文字で皮疹を表現することもあるが、このCの意味は( )である。

この腫瘍の組織診断のための検査では、なるべく( )とすべきである。所属リンパ節の郭清を行うか否かについては色素やRIを用いる( )を行う場合がある。

この腫瘍は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。最近では化学療法の開発が進み、進行例には( )も用いるようになっている。

また、ダーモスコープでの診断が有用とされており、その写真は[ ]である。

4.高齢者の顔面や手背などの( )に生じることが多く、原因は( )によるとされている。予後は( )への移行がみられる。この治療法は、切除手術や液体窒素凍結療法もあるが、最近では( )による治療が保険適応になった。

この疾患は( )で、その臨床写真は[ ]で、組織は[ ]である。

5.糖尿病性や虚血性潰瘍の多くは足部に生じるが、擦過水疱が診られる場合は、( )によって生じる場合で、治療は( )である。一方、合併する( )によって生じる場合の治療は( )であるが、進行し潰瘍が拡大する場合は( )が必要になる場合もある。これらの最初に行うべき鑑別方法は、( )である。

虚血性足病変の進行分類で、足に潰瘍・壊疽を伴う場合は、( )分類の( )度である。

6.植皮は採皮の方法で大きく分けて2つあり、1つは全層植皮で、この植皮法には( )という長所があり、( )という短所がある。

もう1つは分層植皮で、この長所は( )しやすい点である。しかし( )という短所がある。分層採皮された採皮部は、( )から表皮化がすすんでいく。

3年生( )番 氏名( )